

(a) 中国はリーマンショックの時に 50 兆円の景気刺激策を講じた。ところが、この策の一環として内陸部で建設された高級マンションは買い手がつかないので幽霊屋敷となった（テレビ報道による）。つまり、需要がないのに投資したので不良債権化した。更にこの事実は内陸部と沿岸部の経済格差を是正するには簡単でないことを意味する。

(b) 中国は債権国である。（世界的な金の還流の観点からも）お金をどう使うかが問題。無償援助（ばらまき）、投資（借款）などが考えられる。大規模無償援助はありえない。地域振興を考慮すると投資先は本来ならば、外国ではなくて、自国内であるべきだ。ところが、内需喚起のために自国内に投資しても、内陸部と沿岸部の経済格差が更に進行したり、不良債権になったりする可能性が高い。

(c) そこで、中国は国外に投資することとした、AIIB を目論んだ（出資は現在、中国 3 割、インド 1 割）。アジアにはインフラ投資への巨大なニーズがあるのは事実。銀行業務は慈善事業ではないから、借りた金は利子をつけて返さねばならない。従って、査定能力が問題となる、ガバナンス（粉飾決算を許さない監査制度、ひとつの国が主導権を握ることのない運営法）が問題となる。査定を甘くすること（大盤振る舞い）は許されない（例、新銀行東京）。他方、査定を厳しくすると投資先が減る。査定は大局的見地からなされねばならない。

(d) 残念ながら、アジアは不安定要因が多い。AIIB を主導する中国には (i) 真の三権分立がない、(ii) 社会不安がある（官による土地収用によるものなど）、(iii) 人権問題がある、(iv) 人口問題がある、(v) 経済格差問題がある。他方、中東や中央アジアには政情不安がある（例：バングラデシュに於ける IJPC のイラン・イラク戦争による頓挫）

(e) 日本は 3,000 億円出資して AIIB に参加するのはリスクが大きい。我が国は AIIB に深入りすべきではないと小生はながら考える。ADB 総裁のいうように、AIIB と ADB とが協力するのが最良と思われる。